常磐毎日新聞
日刊
夕刊 五月十一日
定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢 郵税五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本忠治 磐城國石城郡平町長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社 （振替口座）東京 四〇二〇番

天氣豫報

今晩は北の風晴
明日は南の風時雨模様

市制の間近い
平町の玄關口打診
黒字づくめを示す去月統計
殊に乘降客激增

市制施行間近き躍進平町の面目は平驛去月中の統計にも躍動して乘降客の往來とみに激增、更にこれに伴ふ手小荷物も增又增の黒字を示して居り僅かに貨物に於て（發送）一〇〇三トン（到着）二六四八トンの何れも前年同期より減少を見たがこれとても運賃に於ては依然增加の一途を辿つて千八百六十八圓三十六錢の增加であつた、この貨物發着トン數の減少理由は發送に於ける平驛の重要面を占むる磐炭發電所の石炭殼の輸送減に基くが收入歩合率の高度な（鐵屑）三七五トン（木材）二五トン（煉瓦）一九五トンが比較的遠隔地に發送されたため收入に於て增加したものである、因に各種前月統計は左の通り括孤內は前年同期對比

☒數量△乘客數四六九六八六人（三六、八一九增）△降客四六七、一〇〇人（三七、二四八增）△手荷物發送三六五二個（七七三增）△同到着二、四〇一個（一二八增）△小荷物發送四、七四四（六五二增）△同到着九、一九六（一三二一增）△貨物發送八、五八六トン（一、一〇三減）△同到着一四、六一一（二、六四八減）

☒運賃△旅客三五、六八圓三七錢（三、三六九、四〇增）△手荷物一、七八八圓九一錢（一八八、七七增）△貨物一三、五九二圓六八錢（一、八六八、三六增）

縣社八幡の老松
危く人家一ひしぎ
早速伐採にかゝる
雷雨中に大騷ぎ

平町八幡小路鎭座縣社飯野八幡神社境內の目通り一丈餘の老巨松が去る四日の雷雨中幹に龜裂を生じて突如境內傍ら傳染病舍に通ずる道路をへだてた人家三棟の眞上に危く横倒しにならんとする危險に陷ゐつたゝめ八番線電線を以つて根元を支へ應急處置を施したが不安のため危險木として縣の許可を得九日から伐採に移つたが一時は高サ數十丈の巨木が人家の屋上に倒れかゝる騷ぎに非常な危險を醸した

入遠野の當選村議

入遠野村の村議改選は此程執行されたが當選者は左の通り

吉田林之助 平子常吉
平子淸次郎 鈴木昌一

藤田校遠足

平町藤田女學校では今十一日全生徒の豐間、江名、小名方面の遠足を催した

平子照治 佐川高千代
上遠野民藏 佐藤儀右衞門
折笠二雄 佐川淸重
平子庄之 佐藤榮吉

磐城洋灰が增資
子會社の事業擴張

磐城セメントでは八日緊急重役會を開催左の如く子會社の事業擴張のため資本金一千七十萬圓を二千三百萬圓に增加することに決定、六月の定時總會に附議する筈、尚之がため現在の未拂込一株五圓、總額六十萬圓を八月一日期限で徵收する

而して增資新株は九月一日現在株主に對し一對一で割當て殘金三万二千株中一萬一千株は役員從業員に功勞株として優先に割當て殘餘の二萬株は取締役會に處分を一任、第一回拂込は十二圓五十錢、十月一日期限で徵收

一、滿洲セメント（資本金二百五十萬圓）遼陽工場現在能力年九萬噸を二十一萬噸に擴張、來月竣工年末完成豫定

一、富山セメント（資本金百五十萬圓）最近日本電力の所有株を肩代りしたものであるが富山工場の窯二基（各日產能力五百噸）中一基は十月完成

一、東京製鐵 資本金三百萬圓を倍額增資造機事業の擴張中

平商祝賀の
相撲大會
五年が優勝

既報、昨十日催した平商の開校二十五周年記念祝賀相撲大會の戰績は左の如く五年の優勝に歸した

三年２――８四年
四年４――６五年
五年７――３三年

安全週間

第十回全國安全週間實施は來る七月一日より七日間全國一齊に施行されることに決定

澤渡青年總會

澤渡村青年團總會は今十一日午前十時から同村小學校に開かれ千葉平第二校長の講演があつた

留守宅への口實
呑み勘定の不足
十圓せしめて其儘逃走

錦村字中田昭和館方雇人佐藤吉太郎（四二）さんが郷里に歸つて留守中の宅へ八日午後八時頃三十七、八才勞働者風の男が訪れて『吉太郎さんと同郷の者で吉太郎さんが郷里の方で酒を呑みすぎ金が不足になつたから十圓ほど持つて來て吳れと賴まれた』と十圓を受取つて立去つたが九日吉太郎さんが歸宅して詐欺と判明、植田署に屆け出たので犯人搜查中

白晝暴行の痴漢
一兩日中に逮捕
有力な手懸りあり
眞犯人の目星つく

既報、去る五日好間村大字中好間地內山林地內で白晝通行中の內郷村宮字金坂植木職皆川等妻女ハル（四七）さん―假名―に暴行を加へ逃走した犯人は平署で被害者が申立てた年齡二十七、八才勞働者風を唯一の手懸りとして搜查中であつたが昨十日某方面から被疑者二名を引致取調べた結果右の二名に對しては嫌疑が晴れたが他に眞犯人の目星が付いたものの如く直ちに活動を開始一兩日中に犯人逮捕になる模樣である

轢き逃げ自動車
平署が張る搜查網

平署では今早朝双葉郡富岡署の手配に依り何事か秘密裡に活潑な搜查を開始、小名濱方部その他交通運輸關係を洗つてゐるが右は今暁二時頃双葉郡廣野村下淺川地內道路で同所通行中の同村吉田某（三二）を背後から轢き倒して重傷を負はせそのまゝ逃走した怪トラックありと是れが搜索の爲めである

陸上競技前哨戰
磐中と平商が猛練習

磐中、平商兩中等學校の陸上競技部は縣下大會の前哨戰である濱通り磐中平商、双中、相中各中等學校の陸上競技大會が來る六月十三日双中グラウンドに開催されるので早くも必勝を期し練習を開始した

ハトロン紙
大暴騰
梨袋に恐慌來
各生產家困惑

石城郡下に於ける果樹産額の王座を占めてゐる梨果は今年も天候に惠まれて一般的に至極順調な開花を見せ早くも可愛らしい結實期に入つたが來月はいよ／＼袋かけとなるので各生產者は準備に忙殺されてゐる、ところが梨袋として使用するハトロン紙は今年は豫想外の高騰し昨年一連六圓臺で買ひ入れられたのが昨今は約倍の十一圓臺を飛び越しそれでも平町內の洋紙店等では容易に購入出來得ない狀態に置かれてゐるので各生產家とも非常に困惑してゐる

青年校視察

篠山平第一校長は今十一日開かれた草野青年學校視察研究會に出席

●●●●●● 產業理事の表彰 勿來町產業組合理事小松淸三氏は九日伊達郡湯野村に開催された縣下產組大會で表彰された

女教員出席

石城女教員會は六月十八、九の兩日福島市の教育會館に開かれる縣下女教員大會の出席者募集中

巖島艦上に
青年學校職員
講習會を開く

本年度艦上簡閱點呼執行のため軍艦巖島が小名濱港へ巡航することになつたのは既報の如く縣では巡航を好機として同艦上に於て青年學校職員講習會を開催することになつた、即ち定員は三十名、艦長が講習指導官となり青年學校長、教員、指導員に對し生徒教養上必要なる海軍々事一般に關する事項を習得しむるもので期日は六月五日小名濱海上で行ふ、受講希望者は本月二十五日まで縣へ到達する樣申込むこと

未成年の
犯罪を辯護
小名濱の刄傷事件

●●●●●

既報、些細の事から口論の末街頭で短刀を振ひ相手を突刺し瀕死の重傷を與へた小名濱町字竹町二四佐川忠良（一九）假名に係る傷害事件の公判は今十一日午前九時から平區で田中判事係り石合檢事立會、門傳辯護士列席の下に開廷、檢事から懲役六ケ月を求刑されたが門傳辯護士の『思慮の淺い少年の犯罪であり將來を慮つて出來得る限り寬大の判決を願ひたいとの減刑論あつて閉廷した、判決言渡しは來る十七日午前九時、尚平町上田病院に入院加療中の被害者淸野文勝君は此程全快退院した由

郡下十一名の……
運轉手表彰さる

縣自動車協會總會は明十二日午前九時から福島市船場町縣教育會館で開催郡下の左記優良運轉手が表彰される

（平支部）大出茂 古川三千彥 長谷川利助 齋藤宇作 木田義道 平子貞次（四倉支部）相川又一 武內勝治（植田支部）鹽利雄 馬上正夫 蛭田千代吉

平商生体格

平商は今十一日市原、鈴木兩校醫に依り全校生の體格檢查を行つた

入賞の種馬

三阪村佐藤喜一氏は郡山市に催された本縣種馬共進會に出陳三等賞に入賞、九日表彰された

海軍記念日に
「各學校の行事」

平町各中等學校及び各小學校は來る二十七日の海軍記念日行事に就いて目下夫々プラン作成中であるが磐中、平商は例年通りマラソン、第一、第二第三の各小學校は小陸上運動會又は强行軍を催す模樣である

水遊中の二少年
相抱ひて溺死す

勿來町大字關田字寺下二雜貨商信一孫勿來小學校二年生根本幸雄（九）同町關田字鍛一鐵道員榮二郎三男同二年生馬上義秀（九）兩名は昨十日學校から歸つて午後一時頃連れだつて遊びに出たまゝ夕刻に至るも歸宅せぬため大騷ぎとなり附近民總出で搜查した結果同夜十一時頃になつて同字地內貯水池に溺死體となつて浮き上つて居るを搜查隊の人達に依つて發見された

兩少年は幸雄の實兄平町某中等學校に通學中の春雄（一六）君の造つたボートを家から運び出し水遊び中ボートが轉覆深みにはまつて奇禍に遭つたもの

轢き逃げ
犯人逮る

別項、双葉郡廣野村地內國道深夜の轢き逃げトラツク犯人は搜查の結果同村築地自動車業根本一郎方助手根本德廣（三二）と判明、自宅に潛伏中同日午前十一時半逮捕した、同人は無免許運轉で被害者は同村上淺見川農梅田源治（三二）で泥醉通行中轢かれ右足に全治一ヶ月の骨折を負つた

平町人事

回出生

△十五丁目二六鈴木金太郎氏長女和子さん

薫風の旅
……その五……

磐女通信

【第四信】

一時は天下を支配した土地鎌倉も今はたゞ名のみを留め綠こき古松に立さわぐ風の音が當時の歸らぬ榮華の後を戀ふかの樣に物悲しく我等の胸を打つ。懷しみの溢れた長谷大佛の御前で記念寫眞を撮り、小袋坂を過ぎて鎌倉時代以後武人の崇敬を集めた八幡宮に參拜し、靜御前をしてあの腸を斷つ樣な舞を舞はしめた舞堂に新なる哀愁の念を催ほされた。鎌倉宮額朝公の墓を拜し今更ながらに冷たい世の習をしみ／＼と味つた。

十一時四十八分、再び帝都の土をふむ。松坂屋前にて解散し午後五時薄靄につゝまれた花の都をあとに種々の想ひをいだいて一週間の旅行を恙なく終へた。

◇

平商通信

【第四信】

生駒山を眺めつゝ朝六時十五分過ぎ奈良を發した。間もなく法隆寺驛到着。法隆寺に詣ず虛子の俳文を思ひ出しながら金堂に入つて玉蟲の厨子や彌陀三尊、伏藏等を見た。八時十三分法隆寺發。同五十四分湊町着先輩が出迎へて吳れた。其處から汗を流し流し步いて堂島株式取引所に到り見學す。手振り遊の聲が壁に谺し騷々しい。次に造幣局。機械を傳つて五拾錢銀貨が流れ、ニッケル貨がこぼれる。こうして人間の手で造られる金が、有機的に此の社會を調節するのかと思ふと一寸奇妙な感じがする。次は大阪城へ行つた。昔の建築は殆んど殘つて居ないさうだが、小豆島から船路はる／＼運んで來た所謂蛸の石なるものは殘つてゐる。天主へ上ると、眼路はるかに市の全景が望まれた。その涯は茫乎たる煙波につゝまれて、微かに生駒山や比叡山、比良山等が望まれた。

午後一時二十五分大阪發京都着は二時六分であつた。京都の第一印象は、大阪に比べると交通が閑散であるといふ事であつた。三時五分桃山へ向けて發つた。明治大帝の雄大なる御功業を憶ひ起しつゝ御陵を參拜す。昭和維新の聲ある現在、大帝の遺業を回想し奉つて、將來の帝國に對する國民としての覺悟を定めるといふ事は眞に意義あると思ふ。歸りに乃木神社參拜。大將の幼時の生家の模造や、旅順開城會見の民家等を會見した。五時十六分京都着『昔の人は呑氣だつた。かうした開けた所がすきだつた。宇佐も鹿島も太宰府も大社も伊勢に酷肖して居た』田山花袋が伊勢を書いた文章に此んな事があつた尙彼は言つて居る『京都に移つてからは、人心がだん／＼せゝこましくなつたから、あの樣な天險の土地を選んだのだ。少くとも吾々が歷史上からの感じからしても奈良なんかのそれは何んとなく原始的な平和な樂しみであるのに反し、京都は藤原氏の專横や、其他の內亂の暗い歷史がまざ／＼と陰慘な氣持を誘はずには居ない。夕食後外出。夜の町を步む。（七日松島精生）

壁の塗り替へは！
カセイン
大谷建材店
平町紺屋町
電話三六六番

KHOJ

今晩の部

▼後六、〇〇 連續童話の「日出ちやんのお手柄 春の卷」大阪放送童話研究會
▼後六、二五 國史連續講演「古文書の傳來」相田二郎
▼後七、三〇 舞臺劇「蔡襖落」市川猿之助他
▼後八、三〇 落語名作選「萬金丹」柳家小さん
▲後九、〇〇 講演「英國皇帝陛下の戴冠式を前にして」松井慶四郎
▼後九、三〇 時報 ニユース 明日の話題 番組豫告

明日の部

▼前一〇、三〇 家庭講座「メソヂスト派の父ジヨンウエスレーの生涯」武藤健
▼前一一、〇〇 小學生等一二の時間 朗讀「五月の空」東京市赤羽校兒童他
▼後〇、〇五 浪花節「孝子と小松御殿」東家左樂遊
▼後〇、三〇 國民歌謠 石川淑子他
▼後二、〇〇 小學生等六の時間「朗讀とお話」
▼後二、三〇 家庭講座 季節の家庭醫學常識「一寸した科學の手當」原勇三
▼後三、一〇 教師の時間 學校體育講座「體育の目的と效」果岩原拓
▼後四、一〇 夏場所大相撲
▼後六、〇〇 お話「漁業物語」新谷武衞
▼後六、四六 英國皇帝陛下戴冠式御模樣
▼後八、〇〇 落語名作選「らくだ」桂圓枝
▼後八、三〇 人形淨るり「帶屋」竹本土佐太夫

外科一般 レントゲン科
內臟外科 泌尿器科
北川外科
平町新川町二七（諸橋醫院跡）
醫學博士 北川芳夫
技師 小林良次
電話四六四番
（血液檢查毎日）
イツデモ入院出來マス

食事
喫茶
酒場を
兼ねた
レストラン
サロン
平田町
電話二五三番

白柄劍風連
大島多慶夫作
井川洗涯畫
[illegible]

（[illegible]）

……一四七……
消える明星 （十三）

五左衞門は、一應抵抗をしてみた。が、しかし、保昌や綱や金時の數々の容子を見ても更にさうした企みなどがありさうではなかつた。

と、同時に、すでに自己の[illegible]が政治的[illegible]に加擔してゐることが、判然と公卿の[illegible]の[illegible]でのべあげられてゐるといふ[illegible]と焦燥があるので、友[illegible]の[illegible]い十[illegible]左衞門に兎れかゝつて、助[illegible]をしてもらはふかとふやうな[illegible]らしい[illegible]もたげて[illegible]た。

「では、[illegible]々。お伴をいたさうか」

「じつはな。公儀の[illegible]が八方に延びて居るのぢや」

「うむ。よく承知をして居る」

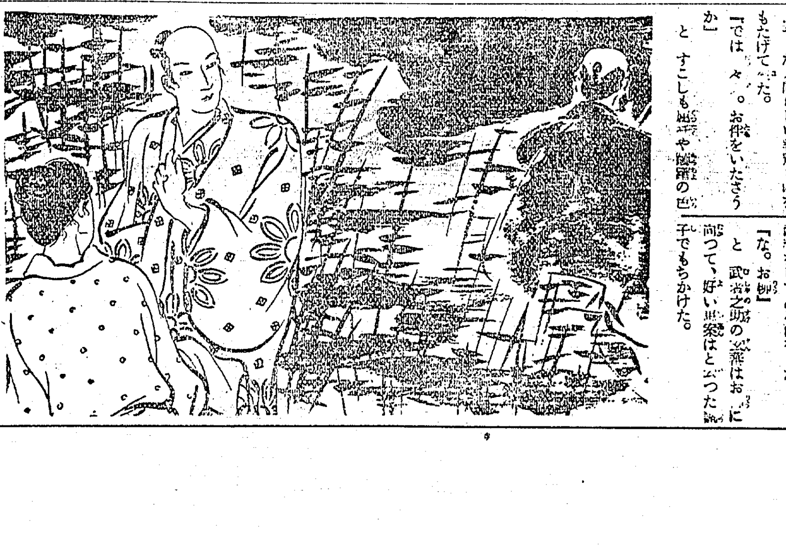
「そこで、御身が水野氏に[illegible]ふに、彼等の手で捕へられては何にもならないから 何とか[illegible]宇[illegible]風呂へ參るまでは[illegible]を[illegible]へて行つたノが好からうやうに[illegible]ふのぢや」

「[illegible]ない。どうせ[illegible]はいたしてゐるが、水野氏の[illegible]に[illegible]いては、手[illegible]も[illegible]しい。さてどうしたものであらう」

と、五左衞門はお[illegible]の[illegible]く[illegible]をしてゐる面を[illegible]た。

「な。お[illegible]」

と武[illegible]之助の[illegible]はお[illegible]に向つて、好い[illegible]はとぶつた[illegible]



を、せないで歩きだした。

その際によつて[illegible]々しい[illegible]とした[illegible]を、たお柳は、一[illegible]と[illegible]々と、閃しい[illegible]が[illegible]つてこんな[illegible]を[illegible]々と[illegible]にして[illegible]にするのが[illegible]く[illegible]ぜられたのであつた。

保昌や[illegible]にしても、公儀の役[illegible]どもが、綱の[illegible]を[illegible]かにして、[illegible]がすまいと[illegible]してゐる[illegible]なのであるから、うつかりそれらの[illegible]どもに左衞門の[illegible]が見付かつては一大事なので、三人は[illegible]となしに眼と眼で[illegible]きあつた。

「[illegible]平氏。ちよつとお待ちなされ」

と 保昌武[illegible]之[illegible]の[illegible]は[illegible]て[illegible]に[illegible]を[illegible]いた。

「[illegible]用か」

五左衞門は、[illegible]つて[illegible]り[illegible]らず[illegible]／＼と三[illegible]の[illegible]をやつた。

お柳はすぐに五左衞門を[illegible]にすることを ひつついた。

「[illegible]の[illegible]になつてはいかゞでござりませうな」

「そなたの[illegible]を[illegible]るかな」

「あい」

「しかし[illegible]ぢや」

「[illegible]拭でうまく胡麻化して……？」

「[illegible]から」

と、綱右衞門の[illegible]も[illegible]じて[illegible]つた。

それからお柳は[illegible]左[illegible]を[illegible]の[illegible]つてゐる へつれて行つた。

[illegible]人の[illegible]は[illegible]々と眼を四[illegible]にくばりながら はなればなれになつて[illegible]をしてゐる、やがて[illegible]左衞門はお柳の[illegible]を[illegible]込んで、[illegible]を[illegible]で巧につゝみながら、[illegible]を[illegible]折つて[illegible]て[illegible]た。

親達をなやむ 嘆きの結婚難時代

十年前にくらべて三、四年も 婚期が遅れて來た

これから秋の結婚シーズンです、所で最近の結婚風景として特に目立つて來たことは男女共にその婚期が大變おくれて來たといふ事です。即ち十年程前までは男二十五歳、女二十歳が婚期の標準でしたが、現在では男二十七―二十九歳、女二十三―二十四歳となつてをります（昭和十年國勢調査統計による）そしてこの傾向はますますふかめられてゆくやうで、これは結婚を人生の第一義とする女性たちにとつて誠に由々しい問題です、一體この原因はどこにあるのでせうか

最大原因は經濟生活の不安定

第一にもつとも大きな原因は最近の經濟生活の不安定です、男子としては以前は生活費も安かつたので二十五、六歳で結婚生活に入ることも比較的容易でしたが、最近では特殊の環境の人をのぞいては學校を出たての二十五、六歳で獨立して結婚生活を營むなどといふ事はとても出來ないので獨立出來るまで心ならずも結婚を待つ事になり、その間に三、四年の年月は經過してしまふわけです、女性においても同樣で、二十歳位の結婚相手として適當な二十五、六歳の男子がそんな風ですから、こちらも已むを得ず待つとか、或は將來の事を考へて職業婦人となつて經濟的獨立をはからうとします、その間にやはり三、四年の年月を經過してしまふわけです

また中には家計を補助する事を餘儀なくされる人もあつて、そのため婚期がおくれてしまふ場合もあります

第二の原因は教育の發達

第二の原因は教育、文化の發達によるもので、女學校を卒業しただけでも十八、九歳にはなつてゐますし、さらに上級學校に進めば二十二、三歳にはなつてしまふ、それから一年位置いて、お嫁さん選び……これでは婚期もおくれるわけです、また女學校を卒業した人でも結婚について眞劍に考へはじめるのは二十一歳くらゐからです

また音樂、スポーツ、娯樂等の文化機關の發達によつて處女時代を比較的面白くすごせますし、またそれをより以上享樂したいために何かと結婚を避けたがる――そのうちに二十四歳位になつてしまひ、あわてゝ嫁さがしといふ事になりますが、かうなると批判眼が肥えてゐて我意識が強くなつてゐますから、あゝでもないかうでもない、でなかなかまとまらない――これは主として中流以上の家庭に見る婚期のおくれる原因です

第三の原因は衛生思想の發達

第三には衛生思想の發達によるもので、これは殊に女性の場合ですが、早婚の害を知るために二十歳位ではまだ結婚生活には不適當と考へて婚期をおくらせるやうな場合、或は自分の少しの疾病を氣にして結婚能力のないものと考へるやうな場合があります、また實際からいつても、殊に都會では二十歳位では體力、精神力共に成熟し切つてゐない場合が多いのです

第四の原因は享樂機關の發達

最後の文明の進歩と享樂機關の發達が[illegible]してゐます爲に、これは男子に多く、アパートに住んで外食し、いろいろな娯樂機關で時間をすごし、簡單な交際にもまた不自由しないとすれば何を好んで窮屈な結婚生活なんか……といつた氣持が獨身男性の間に可成り多いといふ事も婚期をおくらせることになります

なほこれに近い氣持が女性の一部にもある事が考へられます

川魚の臭味をとるコツ

ふなや鯉など、煮るものなら、最初、ちよつと胡麻油でいりつけるとか、焼くものなら、さつと酒通してから料理しますと、川魚獨特のくさ味、なまぐさゝが消えます

男は勝手者…… 若い女性を望む

年をとるにつれて 女は割が惡くなる

大體以上のやうな理由によつて婚期がそれぞれ遅れてゆくものですが、こゝに女性に取つて不幸な事は、男子は相當年をとつてゐながらも、いざ結婚となると、若い女性のみをのぞむ事で、二十四、五になるとオールド・ミス視する考へがあります、しかしこれは少々可哀さうで、世の中がかうなつては二十五歳位までは先づ結婚適齡と見ていたゞきたいものです、しかし二十六を過ぎては婚期を逸したと見られても仕方がないかもしれません、從つてかういふ人は後妻とかその他結婚條件は大分落ちて來るわけです、そこで不幸にしてこのやうな立場になつた女性は手に職を持つとか、家事について理想に近い處理が出來るとかいふやうに、若い人では出來ないしつかりした立場をつくつておく事が結婚條件を向上させる上に大變役立つて來ます（田中孝子女史談）

御存じですか？

豚フライにつける玉子の節約

カツレツ、フライには、必ず玉子をつけますが、玉子ばかりでは、かたくなります。必ず牛乳少々くらゐに、水を割つてください。玉子水のかはりに牛乳の殘りがあればそれでもいゝし、メリケン粉を、どろつとするくらゐに水溶きし、鹽と味の素を加減したものを使へば經濟で玉子にも増して結果のよいものです

料理の秘訣

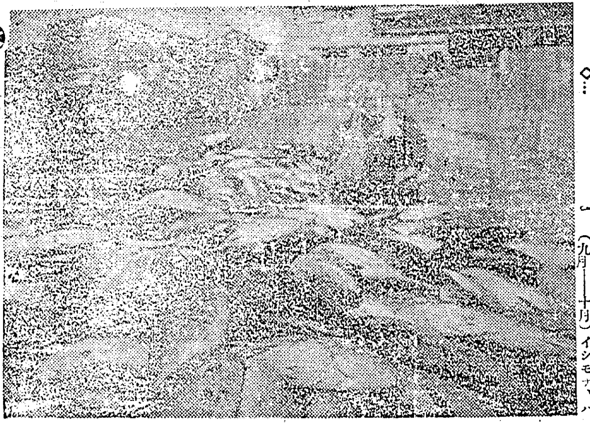
魚の「しゅん」は 産卵の前

一覽表にしてみると

最も大切なしゅんについて

おいしいお料理をつくるには調味上のいろいろな注意とともに材料が季節のもので、かつ新鮮であることが大變必要です、これを一般にしゅんと呼んでゐます

魚で いふと産卵期がこれにあたります、たとへば大衆になじみの深いサンマですが、このしゅんは九月末から十一月ごろまで、この間に漁獲が行はれるのです、したがつてサンマのからだは一年を通じて一番充實してゐます、特にあぶらが乘つたといふ言葉もつかはれます、このしゅんを基礎において材料を取扱ふことが調理の根本問題です、つぎに一般の家庭でよく食膳にのぼる魚について、そのしゅんの調査を報告しませう



◇…（三月―四月）鯛、甘鯛、サハラ、ヒラメ、キス、マグロ、カジキ、キハダ、アヂ、サバ、メジ、カレヒ、カマス、コノシロ、サヨリ、キンメ、ワラサ、ムロアヂ、ボラ、ホウボウ、マイカ、ニシン、シヤコ、ナマコ、サザエ、アカガヒ、バカガヒ

◇…（五月―六月）オコゼ、アユ、イセ海老、カンパチ、アワビ、スズキ、カマス、アナゴ、太刀魚、アコウ鯛、トコブシ、ワラサ、イナダ、カツヲ、アイナメ、ニシン

◇…（七月―八月）フッコ、クロダヒ、皮ハギ、ソウダ鰹、メバル、飛魚、タカベ、ウナギ、ドゼウ、シジミ

・（九月―十月）イシモチ、ハゼ、サンマ、コハダ、レンコ鯛、イワシ、芝エビ、スルメイカ

◇…（十一月―十二月）ヤリイカ、ブリ、タラ、アンコウ、フグ、ビン長、イトヨリ、サメ、飯ダコ、ワカサギ、鯉、フナ、カキ、平ガヒ、ハマグリ、ホタテ貝

◇…（一月―二月）マナガツヲ、白魚、ムツの子、カニ、タコ、タラ子、ムシガレヒ、トリ貝

◇…以上は目ぼしいものだけをあげたのですが、なほこの外に加工品では次のやうなことになります

◇…（三月―四月）カツヲのナマリ、柳ムシ
（五月―六月）剝きシャコ、身カキニシン、數の子
（七月―八月）シラス干、新卷サケ、クサヤ干物
（九月―十月）干ダラ
（十一月―十二月）タラ子
（一月―二月）メザシ、チクワ、カマボコ

ざつと以上の通りです

花嫁講義録

水道と井戸

◇…お話が理詰になつて恐縮でした、では一つ一つのお話に移るとして、まづ、水からはじめませう

◇…都會では、今日殆ど水道を用ひてゐますが、水道の水は朝起きて最初に使ふ時には、バケツに一杯位のものは飲用に供さない事、これは夜中に管の中に水がたまつてゐるわけで、引つ込みの部分が鉛管にしても、鐵管にしても、たまり水を飲用するのはよくありませんから、ざう巾用にでも使はれるのがいゝとおもひます

◇…次に、一番多く用ひられてゐる井戸ですが、昔流式と稱へて從來一般に用ひられた蓋のない井戸を用ひてゐる所では、一日も早く蓋をつけたいものですが、それにしても風の日などすき間から相當に塵埃などがとび込みます、そこで、陽氣がよくなるにつれ消毒の必要があります、その筋の發表に依りますと

水約五石に對しクロール石灰（俗にいふさらし粉）一匁の溶液は消毒藥として適當であるとされてゐます、さらに別の調査法に依ると、家庭の消毒としては、マッチ箱に二杯のクロール石灰（約三十三グラム）（九匁）をビール瓶一本の水によくふるつて、溶かし、そのまゝ一晩置くと、沈澱物が下の方にのこります、これの上水を井戸に二回位に分けて入れゝば、臭味も少くてすみます、但し、井戸へ入れるには夕方飲用水をとつておいてから入れると、翌朝までによくまじり、非常に都合がよろしい

家計メモ

職人の賃銀

◉…春になつて住宅の手入れや、庭などに職人を入れる場合も多くこの際その賃銀に付て昨今の標準値を東京市社會局で調査した結果は左の通りである

大工	一圓八〇錢
植木職	一圓九〇錢
左官	二圓〇〇錢
石工	二圓二〇錢
とび職	一圓六〇錢
ペンキ塗工	一圓五〇錢
疊職	一圓五〇錢
建具工	一圓三〇錢
土工	一圓五〇錢
木挽職	一圓八〇錢
日傭人夫	一圓三〇錢
日傭女	七〇錢
筆耕生	一圓二〇錢
家政婦	一圓〇〇錢
雜用婦	八〇錢

◉…なほ以上の各種の勞働時間は東京市内關係では午前七時から午後五時まで十時間が規定の時間で、これ以外は割増制になつてゐる

笑話

佛様

「惡い事をしてはいけません。必ず神様や佛様が知つてをられますからね」

「神様は知つてゐますが、佛様は知つてゐません」

「それはなぜです？」

「でも知らぬが佛といふことがあります」

護れ太平洋の波

寺島征史（作）

村[illegible]（畫）

……一四七……

觀光（八）

そこには、生々しい土臭が、ゴウゴウたる機械の音から生れてくるやうに感じられるところだつた

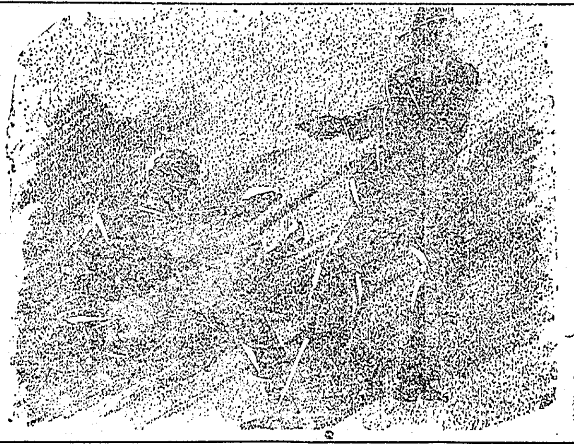
午後七時……地上ではもう夜が來てゐるのに、常闇の地下では、いま勞働者たちは、血まみれになつて働いてゐるやうに感じられ、何だか鬼氣の迫るやうな氣がした。

「栗飯原さん。あんたは、クーペー博士の地下十三階の工事を想像することができますか」

ウイルスンは、こんなことを突然とたづねた。

「あれは超人の技です。われわれの想像以上のものです。あの工事のことを考へると、クーペー博士は偉いとおもひますよ」

「しかし、この日本の地下鐵工事も、迅速な點では超人の域に達したものでせう」



「さうでせうかしら」

「日本では、地下鐵工事の完成を急いでゐるのは・戰爭に備へるためだといふことですか……」

「さア……地下道に入つて、空襲を避けやうたつて、今日の爆彈の地下へ突入する力の方が、はるかに強いですから無駄でせうね。第一、空襲をおそれて地下へ潜入するなぞ、みつともないですよハ、、、」

「しかし、婦女子だけでも地下道へ避難せしむるのが義務ぢやないですかな」

「義務？國民の義務は、そんなところに疎開してよいでせうか。僕はおもふンですがもし、太平洋戰爭が起つて、海の彼方から飛行機がとんできて、東京を襲ふとしますね、そのとき、東京の大半が灰燼に歸してしまふ覺悟を、東京市民に持たねばならないとおもつてゐます」

「ほう」

「いつたい、日本のやうな中央集權の甚だしい都會制度の下にあつて、東京のやうな大都會は、これは罪惡の巣だといつてよいでせう。大正十二年の大震災で、東京の大半を灰燼に歸してこゝから健康な國民生活が生れることをよろこんでゐたのも束の間で、今日では大震災前にもまして罪惡の市となつてしまつたので、敵國の飛行機でも一度灰燼にしてもらつた方がいいとおもつてゐます」

「なるほど……あなたらしい議論ですね、そのうちにあなたの地方集權主義の政治論をきかしてもらひませう」

こんな話に耽つてゐるとき、ウイルスンは、ゴウゴウたる騒音の中で、何おもつたか、とつぜん、大聲をあげて叫んだ。

「あぶない！」

それと同時に、相手の體を衝いた。栗飯原は、溫泉の地獄谷のやうに、泥土と濁水とが渦をなす地下の穴へ、よろよろと轉落した。

あくる日、ホテルの一室で、クーペー博士とウイルスンが、紅茶をのみながら話あつてゐた。

「いやはや、君の冒險にもおどろいたよ」

博士は、れいの冷たい眼で、ウイルスンをみた。

「いや、あんなことくらゐ朝飯前ですよ。黄ろい顏の、チビの日本人ごときにおそれてゐては、ピコル氏の秘書として東京駐在がつとまりませんさ」

ウイルスンは、惡徒らしく自慢した。

「あいつはもう、再びこの世の中へは現はれまい」

「泥土の中へ突きおとしたとき、あいつは、ウンともスンともいはなかつたので、はたの勞働者たちも、まさか僕が突き落したとはおもはなかつたでせう。いや、誰一人この眞相を知るものはありますまい」

「とにかく、うまくやつてくれた。どうせ栗飯原などは、日本でも忘れられてゐる國際放浪者なのだ。日本の、しかも東京の地の下で眠ることができて、さぞいまごろは泥の中で君に感謝してゐるだらうさ」

電話新設
七三四番
內郷村御臺境新町前四四
上州屋精米所
內郷村小島尼子橋南詰
木村部

新開院

重田眼科
平驛前通り
元福島貯蓄銀行跡
眼科一般
眼鏡檢定
醫師 重田景治
平町田町一番地

毛糸、毛織物、人絹類を縮めずに洗へる……
特許新洗劑
モノゲン
漬けて十分間、揉ますに落ちる新洗劑
費用は大人のセーター一着三錢で間に合ひます
定價 0•35 1•20
平町田町銀座 ハシモトヤ糸店
電話一四番

上原家政婦會
會主産婆 上原通子
平町紺屋町一一
電話二二二番
産婆看護婦有資格者ヲ一般家政婦トシテ派出致シマス

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士 鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前
自炊のお需めに應ず
入院の便あり

齒科口腔外科
レントゲン科
院長 東京齒科醫學士 原精一
原齒科醫院
電話三一番
平町十橋通り

(○)評判の美味しい「みつ豆」始めました
蜂蜜入・フルーツ みつ豆
東京風 アン みつ豆
電28 福壽軒

胃腸病に一大黎明
胃腸
心臓
便泌性
に！
皇漢藥 神効散
◇景品 一圓袋一個御買上毎に神効散二日分と景品抽籤券を差上げます
◎一等 三千圓割増附拾圓券 三本
◎二等 千五百圓割増附五圓券 六本
◎三等 神効散八日分 百廿名樣
阿部藥店 平町田町

和洋建具家具
テーブル
椅子
其他裝飾品一般……
製作販賣
御用命は迅速に御努め致します
諸官衙各學校御用達
平町五丁目四
㊐片寄製作所
電話四八四
（見習徒弟募集）十五、六歲以上 委細面談

電話開通
七三八番
清風幼稚園
日本基督教會
代表 中村清次

カーテンとリノリームの御用は！
大谷建材店
平町紺屋町 電話三六六番

外科 內臓外科
X光線科
産婦人科
新設
院長 安齋徹
醫學士 黑澤廣
▽入院隨意△
平町田町
安齋醫院
電話四七五番

御贈答に……
鰹節
美味 鰹鹽から 干やなぎ
志賀盛榮商店
（平町四丁目 電話二一三番）

國旗と提灯
平四 スタンダ

吉田眼科醫院
平町紺屋町
電話六八番

三井タクシー
平 電話五八六番